

「第10回『私たちと北方領土』作文コンクール」入賞者一覧

賞名	題名	名前	市町村名	学校名	学年
富山県知事賞	北方領土問題について	五十嵐 智	富山市	奥田中学校	3年生
北方領土問題対策協会 理事長賞	北方領土と世界の平和	金木 大成	高岡市	芳野中学校	3年生
北方領土返還要求運動 富山県民会議会長賞	虎穴に入らずんば虎子を得ず	金森 翼	高岡市	芳野中学校	3年生
富山県教育委員会 教育長賞	平和を願い	佐々木彩加	黒部市	宇奈月中学校	3年生
富山県市長会会長賞	想いを受け継いで	田中 陽菜	黒部市	高志野中学校	3年生
富山県「北方領土問題」 教育者会議会長賞	私の考える北方領土	鈴木 里枝	富山市	東部中学校	3年生
入 選	北方領土と元島民の方々	池森 美穂	黒部市	鷹施中学校	3年生
入 選	北方領土返還に向けて	木村 鮎香	黒部市	高志野中学校	3年生
入 選	北方領土問題の理解を深めるために	常木 星花	黒部市	宇奈月中学校	3年生
入 選	北方領土の返還と地域のつながり	大澤 文音	魚津市	西部中学校	2年生
入 選	北方領土問題について	古川 月海	魚津市	東部中学校	3年生
入 選	いつの日か北方領土へ……	松井 芽依	立山町	雄山中学校	1年生
入 選	北方領土問題について思うこと	神島小真知	射水市	小杉中学校	1年生
入 選	本当の平和と北方領土	小林 空	射水市	小杉南中学校	1年生
入 選	北方領土について	山崎 翔真	氷見市	十三中学校	3年生

富山県知事賞

北方領土問題について

富山市立奥田中学校 三年 五十嵐 智

僕は今まで、「北方領土問題」に関して他人ごとのように感じていて、全く興味がありませんでした。北方領土について知っていることは、北海道の根室半島に連なる歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四つの島が、元々は日本の領土だったこと、第二次世界大戦末期の昭和二十年、ソ連（現ロシア）が、当時まだ有効であった日ソ中立条約を無視して対日参戦し、満州や樺太、千島列島へ攻め込み、日本の降伏後も攻撃を続け、北方四島を占領したということです。

僕が北方領土問題について詳しく知りたいと思ったのは、曾祖父が歯舞群島の志発島に住んでいたことを祖父から聞いて知ったからです。曾祖父は漁師をしていたようで、島では昆布やほたて、蟹などがたくさん採れたという話を聞きました。当時から北方領土周辺の海は水産資源の宝庫だったようです。

驚いたのは、富山が北方領土と深い関わりがあることでした。富山からたくさんの方が移住していたため、島からの引き揚げ者の数が北海道に次いで多いという話も聞きました。

曾祖父が終戦後の昭和二十年九月に島を引き揚げたという資料も見せてもらいました。当時三歳だったという祖父は、曾祖父におんぶされて、たくさん昆布が並べて干されていた浜辺のことを今でも覚えていと言っていました。そして、島を引き揚げた後に、曾祖父が牛乳をとるために育てていた牛を島に置いてきたことを気にしていたという話も聞きました。祖父の話から、島を追われたという怒りや悔しい気持ち伝わってきました。そして北方領土返還への強い気持ちを感じました。今でも毎年「ビザなし交流」で北方領土へ行くという話があるが、一度も行ったことがないと言っていました。

また、僕が北方領土問題についてどのくらいの知識を持っているのか気掛かりなようでした。当時のことを知る島民は年々減少しています。この問題が歴史上の出来事として風化していくことが案じられ、子孫に語り継いでいくことを望んでいると話していました。

僕は自分ができることは何かを考えてみました。北方領

土問題について一人一人が真面目に向き合い、興味、関心を持ち、正しい知識を得ることが大事だと思いました。自分が日本という国の一部であり、直面している問題に目を向けることが、問題解決の一步と言えるのではないでしょうか。領土問題の解決は簡単なものではありません。しかし、平和的解決を目指し、お互いを理解し合えるように粘り強く話し合い、交渉すべきだと思います。譲り合う心を持ち、近い将来、北方領土が占領された地ではなく、両国にとって友好の地となつてほしいと思います。

北方領土問題対策協会理事長賞

北方領土と世界の平和

高岡市立芳野中学校 三年 金木 大成

北方領土。日本固有の領土であり、択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島によつて成る。しかし、現在ロシアによつて、不法に占拠されている状態である。

これが学校などで習つた、北方領土についての知識です。以前まで、私は北の方の島が不法に占拠されているこ

とが問題なのだなと思つていました。そのため、はっきり言えば、私には関係ない。そう感じていました。

北方領土について考えてみようと思つたのは、今年の歴史の授業で第二次世界大戦を習い、七十年以上続く問題に興味が出たからです。

少しインターネットで調べてみると、ロシアが一方的に条約を破棄して、日本に攻め込んだこと。そして、ポツダム宣言を受諾したその後も、攻撃を続けて北方領土を占拠したことがサイトに多く書かれていました。

しかし、日本側の主張だけを調べてはいけないと思い、ロシアはどう主張しているのかも調べてみました。

日本との主張の食い違いは、千島列島の範囲とヤルタ協定、そして終戦の日にあることが分かりました。

日本は、千島列島の中に北方領土を含めていないが、ロシアは含めて考えている。ロシアは、ヤルタ協定で支配の権利を認められたと考えているが、日本は関わっていないとして認めていない。日本は終戦日を八月十五日と考えているが、ロシアは日本が降伏文書に調印した九月だと考えているため、不法占拠と考えていない。主張の食い違いが多くあります。

そして、主張の食い違いによつて交渉が平行線を辿つて

纏まらない。そんな状況が続いているということが分かりました。

私は、北方領土が返還されないことも問題だと思いますが、こういった状況が続くことが一番の問題だと思います。

日本とロシア間での文化や経済などの交流をしたくても、北方領土問題が引つかかって話が前に進まない、などという状況に発展しかねない。そう考えたからです。グローバル化や国際協調が必要な社会において、北方領土問題は、両国の足を引っぱるものではないと思いましたが。

日本とロシアは、今こそ北方領土問題に正面から向き合い、早急な解決を図るべきだと思います。そして、私たちは偏った考えをもたず、客観的な見方でこの問題について考えていくべきだと考えています。

世界では、多くの地域が領土問題によって対立し、紛争も起こっています。先進国である日本とロシアが、北方領土問題を話し合いで解決することで、戦争のない平和な世界へと一歩踏み出せると私は思います。

北方領土返還要求運動富山県民会議会長賞

虎穴に入らずんば虎子を得ず

高岡市立芳野中学校 三年 金森 翼

「南クリルは日本領なのか。」

僕は友人にこの質問をされたとき、すぐに答えることができなかった。

質問をしてきた友人は、名をダヴィットといい、ウラジオストク在住のロシア人だ。彼は続けてこう言った。

「僕は学校で南クリルはサハリン州の管区だと教わった。ネットを見ていたら、日本人がロシアに返せと言っている。これはどういうことか知りたい。」

彼が言う「南クリル」というのは、歯舞群島、色丹島、国後島そして択捉島の、すなわち北方領土である。北方領土は下田条約のときから正式に認められた日本国の領土。それ故、僕はこう答えた。

「南クリルは日本の領土。だけど今はロシアが不当に占拠しているんだ。」

きつと「それは違う。」と否定されるにちがいないと思っ

だが、彼はこう返した。

「やっぱりそうなんだ。」

意外だった。竹島問題での韓国のように、違うの一点張りだと思つたのに。

「父がよく言っているんだ。南クリルは日本の領土だから返せばいいってね。周りにもこう言っている人が多いから、何故だろうって調べてたんだ。」

ロシアにも、彼の父親のように、北方領土は日本領と考えている人がいるのかと少し感動した。

「じゃあ逆に、なんでロシアは日本に返さないんだと思う？」

僕のこの質問に、彼は、

「はつきりと言わないからじゃないかな。こっち（ロシア）じゃ、あまり聞かないんだよね。日本が返せって言っていることを。」

そうか！と思つた。確かにそれはあるかもしれない。報道を見ていると、日本政府はロシアの顔色をうかがっているように思える。はつきりと「返せ」と強くしつこく要求することが必要になつてくると思う。

相手と同じ目線や立場で話して、初めて前に進んでいく、これがロシア式のやり方だそう。ロシアが断固として北方領土を返さないという姿勢をとり続けるならば、日

本はロシアが北方領土を返すまで、根気強く返せと言い続ける強い姿勢をとらなくてはならない。そのような強い姿勢をとれば、きつと両国間に亀裂が走るだろう。だが、その亀裂が問題を解決するための第一歩となる。

一見、現在の日露間には亀裂が走っているように見える。だが僕はロシアの言いなりになっているだけだと思うのだ。このまま言いなりになり続けていても、何の解決も生まれぬ。日本は大きな行動を起こすべきだと考える。たとえその行動が危険だったとしても。

虎穴に入らずんば虎子を得ず。何も起こさないうままで、北方領土は永遠に返還されないだろう。

富山県教育委員会教育長賞

平和を願ひ

黒部市立宇奈月中学校 三年 佐々木彩加

「北方領土」。私は、総合的な学習の時間にこのことについて学び、そして、私たちの住む富山県とのつながり、北方領土の未来について深く考えさせられました。

北方領土については、学習する前まではあまり関心がありませんでした。知っていることといえば、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四つの島から成っているというところぐらいで、総合的な学習の時間でのビデオ学習や自分で本やインターネットで調べること、富山県と北方領土とのつながりについて知りました。

当時、多くの県民が北方領土へ出稼ぎに行っていました。北方領土から富山県への引き揚げ者が北海道に次いで二番目に多かったと知り、北方領土との関わりが深いと感じました。

九月末、元島民の方が学校に来られ、当時の生活についてのお話を聞く機会がありました。そのころの漁業の様子や四季の変化、幼かった頃の話など、「大変だったがやはり北方領土での生活は楽しかった」という思いを語っていただきました。現在、ロシアとの間で対立している「北方領土問題。」「こんなにも身近に北方領土とつながりのある人の存在を知り、遠くに感じていた北方領土問題との距離が縮まったと思いました。島民の方は突然住む場所や仕事を、そして何よりも大切な故郷を奪われました。その時の苦しみや悲しみは、想像できないほど辛いものだと思います。そんな思いをした人が、富山県にもたくさんいると知

り、北方領土問題について考えることにしました。

私はロシアか日本、どちらかの領土にするのではなく、日本人とロシア人が互いに尊重し合い、共に生きることができる環境を整えることが大切だと思います。

なぜなら、過去にそこで暮らしていた日本人にとっても、現在そこで暮らしているロシア人にとっても、お互いに大切な土地だからです。だからこそ、どちらも自由にお互いを尊重して生活することができるというのが一番理想的なのではないかと私は考えます。

これを実現させることは難しいと思いますが、授業で学習したこと、自分で調べたこと、元島民の方にお話を聞いたことを自分なりにまとめ、最終的に自分が一番いいと思った考えはこのような内容です。

考えの違う人たちが和解し、お互いを尊重しながら共に生きていくというのは、とても大変なことだと思います。しかし、努力すれば必ず実現できることだと思います。問題が早く解決すること。そして、日本とロシアの関係が良くなることを願います。世界にはたくさんの領土問題があります。北方領土問題の解決策が世界のモデルケースになり、全ての領土問題の解決と世界の平和につながればと思います。

富山県市長会会長賞

想いを受け継いで

黒部市立高志野中学校 三年 田中 陽菜

「私たちが中心となって動いていかなければならない。」
この言葉は、私たちに向けられたものでした。

歯舞、国後、色丹、択捉。この島々が旧ソ連軍に不当に占拠され、祖先の墓参りすら自由にできず、時間だけが過ぎていく、それが北方領土問題なのです。かつて、私たちの曾祖父の世代である方々が苦労を重ねて開拓し、コンブ漁、サケ・マス漁において発展し、大自然に囲まれた地、北方領土。当時、四島にはたくさんの方が住んでいました。荷物の輸送や気温差等の問題はあったものの、島民の方々は充実した毎日を過ごしていたそうです。しかし、今から七十一年前、第二次世界大戦敗戦から数日後、人々は島を追われました。そして現在もその状況は何も変わらないまま。それが現実なのです。

この夏、私は北海道派遣団の一員として、北海道を訪問し、根室で行われた北方領土返還要求市民大会に参加しま

した。その中で最初に記したあの言葉が言われたのです。

周りを見ると、参加者のほとんどを高齢者が占めており、若い人たちは指で数えられるほどでした。北方領土問題の原点の地である北海道がその状態でのいいのか、私が一番に思ったのはそのことでした。では他県ではどうなのか。他県では、「北方領土なんて戻ってこなくてもいい」と考えている人すらいるそうです。それでいいのでしょうか。日本固有の領土が、血の滲む思いをして開拓した土地が奪われたにも関わらず、そのような考えをしまつて本当にいいのでしょうか。私は悔しくてたまりません。

追われてから何十年もたった今、島に帰ることを夢見て他界していく人も多いと聞きました。どうして自分の故郷に足を踏み入れることすら許されないのでしょうか。さらに現在、ロシア側が多額のお金を出し、島々の発展に協力すると発表したそうです。このままではさらにロシア化が進み、なおさら返還される可能性が低くなってしまいうのです。

私は別にロシアを恨んでなどいません。逆に言ってしまうと、おかげで今回の貴重な体験をすることが出来たのですから。でも、このままではいけません。故郷に帰れないまま他界していった人たちのためにも私たちのような若

者が立ち上がらなければならないのです。北方領土問題は、日本の抱える解決すべき問題なのです。ビザなし交流が行われ、「現在、四島に住んでいるロシアの人々とはお互いを理解しつつあるかもしれない」と、元島民の方々は言うておられました。私は、日本とロシアが共存できる、平和の象徴のような場に四島がなつてくれればと願っています。

そのために、皆さんに北方領土問題について理解を深めてもらい、一人でも多くの方に署名をいただくことが大切だと思いました。それを実行していくために、私は国内外に北方領土問題について伝えていきたいと思えます。

富山県「北方領土問題」教育者会議会長賞

私の考える北方領土

富山市立東部中学校 三年 鈴木 里枝

私は、北方領土について「北方領土は日本のものだから、早くロシアが日本に返してくれば良い」と、ずっと思っていました。

しかし、中学一年生の時、「えとぴりか」巡回研修事業

に参加し、大勢の中学生と、北方領土について話し合いました。そこで「今、日本に返還されると、現在北方領土に住んでいるロシアの人が、故郷を失い、以前の日本人と同じような思いになり、困る」ということが分かりました。この問題は、自分が考えていたような簡単なことではないことを理解しました。

私の住む富山県は、北方領土からの引揚者が北海道に多いので、自分も北方領土について、再び考えてみるべきだと思い、中学三年になった今、歴史を調べてみました。すると、一年生の頃にはまだ知らなかった、北方領土について、たくさんを知ることができました。それらのことをふまえて、私は北方領土を日本とロシアの共同エリアにするのが良いと考えます。理由は四つあります。

まず、今まで両国が主権を主張し合ってきて、どちらもゆずらなかつたということは、これからもゆずらないと思うからです。

第二に、かつて故郷を失った人々も、再び北方領土で生活できるようになるからです。

三つ目は、前にも書いたように、今日本に返還されると、そこに今住んでいるロシアの人が困るからです。今、

北方領土に住んでいるロシア人は、昔そこに住んでいた日本人と同じような人数だと聞きました。つまり、以前故郷を失ってつらい思いをした日本人と同じくらいの人が、同じ思いをすることになります。私は、富山市に生まれてずっとここで育ってきたので、故郷を失うつらさは分かりませんが、きつと悲しく、つらく、何度も帰りたいと思うことでしょう。私は、そのような思いを、これ以上たくさんの人に抱いてほしくないです。生まれた国は違っても、みんなそれぞれが感情を持つ、同じ人間なのですから。

最後に、日本人とロシア人が北方領土で共生すると、新しい文化交流にもなると思うからです。互いの文化を受け入れ合うことで、両国民がより豊かな生活ができるようになると思います。

北方領土には、豊富な資源や水産物がありますが、その一部を北方領土の開発にあてて、残りを公平に二分割すればよいと思います。

私は、なるべく早くこの問題が解決して、たくさんの日本文とロシア人が北方領土で幸せに暮らせるようになってほしいと思います。そのためには、できるだけ多くの人のこの問題を知ってもらう必要があります、私も友人、知人に進んで話していきたいと思います。

入 選

北方領土と元島民の方々

黒部市立鷹施中学校 三年 池森 美穂

私が初めて北方領土問題を知ったのは、小学生の時に行われた出前講座の時でした。その時、私は幼く、話の内容がよく分からず、「どうしてロシアは、日本の領土を占領しているのだろう」という疑問しか残りませんでした。その後、中学生になって、社会科の授業で学んだり、元島民の方が学校に來られて話されたり、資料や本を読んだりして、少しずつ理解できるようになりました。

日本とロシアは、ずっと昔から国境をめぐって何度も条約を結んでいるということが分かりました。そして事の発端は、日本が戦争に負けて気が緩んでいる時、急にロシア軍が千島列島に攻撃してきたことだということも分かりました。元島民の方の話によると、八月十八日から千島列島の北から順にロシア兵が銃を持って上陸してきたので、「また帰って来られるだろう」と思って逃げたと言っておられました。船に乗って、いったん北海道に逃げたそうで

す。あと少しで、昆布の出荷だったので、昆布を置いて逃げる時に悲しさと悔しさで泣いていた人もいたそうです。

私が北方領土問題で一番ショックを受けたのは、社会科の先生が北方領土に行かれた時に撮られた写真やDVDです。先生が「今から北方領土に行ったときの映像流すぞ」と言われたので、「きつと島民の方々が島を離れた時と変わらないのだろう」と思い、「どんな暮らしをしておられたのか知ることができると、ワクワクしていました。しかし私の日には、とても衝撃的な映像が映りました。それは、俗に言う「ロシアアンタウン」でした。私は、ロシア人が住んでいると思っていなかったのです。カラフルな色の建物やロシア人の服に、北方領土問題が本当に存在し、現在進行形だということを知りました。と同時に、「もし、北方領土が日本に返還されたら、ロシアアンタウンやロシア人はどうなるのだろうか」「全ての物を壊して新地にしてから日本に返還されるのだろうか」「ただ島に住みたい日本人が行くだけの場所になってしまうのだろうか」と、いくつもの疑問が頭をうめつきました。しかし、日本人とロシア人が仲良く食事をしたり話したりしているのを見ると、北方領土問題は着実に前に進んでいるのではないかとも思いました。

数カ月後には、日露首脳会談が行われます。少しでも良い話し合いになり、島民の方々の思いがプーチン大統領に伝わり、一島ずつでも良いから返還されることを願っています。富山県は、二番目に元島民数が多い県です。そして、富山県で一番元島民が多い市は、ここ黒部市です。島民の方は言っておられました。「死ぬ前に、島へ帰りたい」と。それが、「夢」ではなく「現実」になるには、私達日本国民が北方領土問題を他人ごとだと思わず、関心をもち、正しい知識を身に付けて理解し、訴えていくことが大切だと思います。

入 選

北方領土返還に向けて

黒部市立高志野中学校 三年 木村 鮎香

七十一年前の夏、ふるさとを奪われた人々がいた。銃を持った外国人が家を荒らし、人々は強制的に家もふるさとも手放させられることになった。七十一年経った今でも、帰ることはできていない。これが北方領土問題だ。

以前の私は、北方領土問題と聞いても、どこか他人ごとのように感じていた。知識もあまり無く、親戚に元島民の方がいるというわけでもない。以前の私と同じような人は、今でも多くいると思う。しかし、私は今年になって北方領土について学ぶ機会があり、実際に元島民の方のお話を聞くこともできた。ふるさとへの思いがひしひしと伝わってきて、他人ごとのように思っていた以前の自分を情けなく思い、自分の意識を変えることができた。

また、北方領土について知ること、今まで考えることのなかったロシア人の方々のことも考えることができた。北方領土が占領されてから七十一年が経っている。北方領土で生まれ育ってきた人も多くいるだろう。その人々にとっても北方領土がふるさとだ。だから、ロシアがかつて日本にしたように、武力で追い出すようなことはしてはいけないと思う。

日本の政府は、「返還が実現したら住んでいる人の希望を尊重する」としている。日本の領土になったら豊かな資源を有効に活用できると思うし、建物や道路等の整備もしっかりできると思う。自分の住んでいるところが外国の領土になるというのは複雑だと思うが、利点もあり、歴史的に見ても日本の領土なので、返還を前向きに考えてほし

いと思った。

北方領土返還に向けてまず私達ができることは、この問題に関心をもつことだと思う。テレビやニュースの中のことのようにただ見ているだけではなく、一歩踏み出して積極的に返還に向けて考えたり、活動に参加したりしていくことが大切だと思う。元島民の方は約一万七千人おられたが、今では約七千人ほどになっている。この問題を解決するために活動していくにはあまりに少ない人数だ。しかし、返還への活動や手助けは私のような中学生でもできる。以前、話をうかがった中に、「北方領土問題について学んだことを他の人に伝えてほしい。それが返還の第一歩だ。」と言っている方がいた。多くの国民が返還を望めば、問題解決に近付くだろう。一日でも早く返還されるよう、これからは私は北方領土問題について伝えていきたい。元島民の方々がふるさとへ帰れるその日まで。

入
選

北方領土問題の理解を深めるために

黒部市立宇奈月中学校 三年 常木 星花

「私達の故郷を返してほしい」

元島民の方や二世、三世の方なら、誰もが思っていることなのではないでしょうか。

八月五日～八日にかけて、北方領土問題について理解を深めるため、私は北海道派遣団の一員として北海道を訪れました。北方領土問題についてよく知りませんでした。北海道を訪れて元島民の方の話聞き、学んだことがたくさんありました。

それは、ロシアに不法占拠されてから七十一年もの月日経っています。島は元島民の方にとって大切だということ、自分たちが苦勞を重ね開拓した島々へ自由に行けないうことです。

その後、九月二十八日に学校で、元島民の方々から話を聞ける「出前講座」が行われました。その際にも、元島民の方々は「島での生活は楽しかった」とおっしゃって

いました。私は北方領土の島々へは、行ったことがないので、どんな状況なのか想像もつきません。しかし、現在一万六千人ものロシア人が住んでいるということは知っています。もし北方領土が返還され、日本に戻ってきたのなら、一万六千人ものロシア人はどうなってしまうのでしょうか。現在住んでいるロシア人にとっても、故郷である島々が、戦後の日本と同じように奪われてしまうということになるのではないのでしょうか。それだけは絶対にしたくないとおっしゃる元島民の方々もたくさんおられました。そのためには両国が幸せになれるような話し合いをしないといけない。日本側の思いだけでなく、ロシア側の思いも尊重しなければいけません。このことを「出前講座」や実際に北海道を訪れ、改めて痛感しました。

北方領土問題について、皆さんはどれだけのことを知っていますか。この問題について詳しく知らない人、または興味や関心を持っていない人が多いのではないのでしょうか。北方領土問題については、日本人としてしっかりと自身心に受け止めておかなければいけない、知っておかなければいけない問題だと思えます。あなたの周りを見てみて下さい。もしかすると、あなたの祖父母などに元島民の方々がおられるかもしれません。私は、元島民の方、も

しくは元島民二世、三世の方々に話を聞くのが一番だと思います。ぜひ聞いてみて下さい。

また、より多くの方に北方領土問題について知ってもらうために、今、私たちができることは何でしょう。次世代を担う私たちに何ができるでしょう。私は、自分の得た知識を周りの人たちに伝え、理解を深めてもらおうと思います。また、一刻も早い解決になるよう、祈りたいと思います。

入 選

北方領土の返還と地域のつながり

魚津市立西部中学校 二年 大澤 文音

現在、日本では、古来から日本の領土であった北方領土がロシアに占領され、北方領土をロシアから返還させる運動が活発に行われている。しかし、それはまだ実現されていない。

私は日本の領土である「北方領土」がロシアに占領されて問題になっていることはニュースなどで知っていたが、あまり関心を持ったことはなかった。だが、学校で配布さ

れた北方領土問題について書かれている資料を見て、この問題は深刻な状況にあるということを知らされた。

特に印象に残った内容が、北方領土に住んでいた元島民の吉田義久さんのお話である。吉田さんのふるさととは、歯舞群島の一つで水晶島という島だそう。この島はたくざんの美しい花々や動物たちが住む、大変自然が美しいところだったそう。島の生活は楽ではなく、子どもも、朝早くから学校を休んで漁の仕事をしていて厳しい生活だったが、時間が経つにつれて島の生活も安定していったのだそう。そんな矢先の昭和二十年、旧ソ連が北方領土を占領し、吉田さんや北方領土に住んでいた人たちのふるさとの景色、思い出までも奪っていったのだ。

私は、この内容を読んで、「身勝手なロシアの行動で、なぜ大切なふるさとを奪われる必要があるのだろうか」と、悲しさと怒りの気持ちと同時に込み上がってきた。北方領土問題の中でも、こうして心の傷を負っている人もいるということを知り、とても他人ごとではないと感じた。多くの人々にも北方領土問題について深く考えてほしいと思った。

そのためには、もっと北方領土問題について関心を持ってもらう必要がある。しかし、その機会はまだ見受けら

れない。そこで、もっと地域との連携を大切にしていくことが重要だと考えた。年に数回ほど集会や講演会などを学校や地区の施設などで開き、地域で北方領土返還への思いや願いを知ってもらいたい。そうすることによって、国民がつながり、返還に対して関心を持ってくれる人が増え、北方領土問題の解決に向けて進んでいけるのではないだろうか。つまり、北方領土問題は、日本全体の問題であり、国民が理解や関心を持つことも必要なのである。

この機会を通して、北方領土問題への関心や考えを持つことができ、より北方領土返還への思いが強くなった。今年の十二月に行われるロシアのプーチン大統領との首脳会談で、北方領土問題の解決が少しでも進展することを祈り、北方領土でまた人々が暮らせるようになることを期待する。

入 選

北方領土問題について

魚津市立東部中学校 三年 古川 月海

私は今まで「北方領土」という言葉を新聞やテレビの

ニュースで聞くことはあっても、よく考えたことはありませんでした。しかし、富山県は北方領土からの引揚者数が全国で二番目に多いことを知り、北方領土について調べてみようと思いました。

北方領土は、戦後ロシアに不法占拠されるまで一度も外国の領土となったことがなく、日本人しか暮らしていませんでした。それをロシアは一九四五年に一方的に占領し、全ての日本人を強制退去させました。突然故郷を奪われた人々は、とても辛い思いをしているに違いありません。また、北海道に最も近い歯舞群島の貝殻島は、本土から約四キロメートルしか離れていません。こんなに目と鼻の先にある島々に自由に行くことができないなんて、とても理不尽なことだと思いました。

北方領土の返還を求める運動は全国に広がり、現在の返還要求署名者数は約八八―四万人にもなりました。今後、さらに返還運動を盛んにするためには、私たちの世代がより北方領土問題への意識を高め、一人一人が自分の考えを持つことが大切だと思います。

しかし、北方領土からの引揚者の平均年齢は八十歳を超え、高齢化が進んでいます。このままでは、北方領土問題を若い世代へ語り継ぐことができなくなってしまうでしょう。

う。また、現在の北方領土にはロシア人が生活していますが、当時のことを全く知らない人も多くいます。この状況では、北方領土を返還させたとしても、実際に生活している人々のことを考えなければ、昔のロシアがしたことと全く同じになってしまいます。

だから、北方領土問題を平和的に解決するためには、日本とロシアがお互いのことを理解し合う必要があると思います。日本とロシアの交流活動として、日本人がビザなしで北方領土を訪問する取り組みが、一九九二年から行われています。北方領土問題があるため、戦後七十年以上がたっているのに、日本とロシアの間では平和条約が結ばれていません。交流活動をきっかけにして、日本とロシアの関係が友好になれば、北方領土問題も解決できるだろうと思います。そして、北方領土が返還された後も交流活動を続け、日本とロシアのつながりをより深くしていくことが大切だと思います。

北方領土返還には時間がかかると思いますが、粘り強く交渉を続けていくべきです。そのために、私たちは北方領土について、より知らなければいけないと思います。

入 選

いつの日か北方領土へ…

立山町立雄山中学校 一年 松井 芽依

私は、毎年お盆になると、家族でお墓参りに行きます。お墓をきれいに掃除したり、花や果物等のお供え物をして、ご先祖様に手を合わせ、日頃守ってくださっていることへの感謝の気持ちを伝えます。

しかし、そんな当たり前のことができないう人達がおられることを、去年の夏、初めて知りました。

小学校生活最後の夏休みに、私は祖父母とともに北海道の知床半島を訪れました。知床半島から海を眺めると、手が届きそうならぬ位置に北方領土が見えました。

「北方領土は、もともと日本の領土だったんだよ。でも、今はロシアに占領されていて、自由に行き来することができなくなっちゃってしまっているんだ。」

と祖父が教えてくれました。

「それじゃあ、もともとそこに住んでいた人達は、今どうしているの。」

と私はたずねました。すると祖父は、

「みんな島を追い出されてしまったんだよ。そして、北海道だけでなく、富山にも多くの人達が移り住んだんだ。元島民やその子孫が北方領土に行くためには、国が出す身分証明書が必要なんだ。だからお墓参りさえなかなか出来なくなっちゃったんだよ。」

私は驚きのあまり、言葉を失いました。

「大切な人のお墓を残したまま島を出ていった人達は、どんな気持ちだったんだろう。」と思うと、胸が苦しくなりました。

それと同時に、日本の領土を勝手に占領したロシアに対して腹が立ち、今の自分には何もできないことを悔しく思いました。

今、自分にできることは何だろう。そのことをずっと考えていました。すると、知床半島の羅臼町にある「知床世界遺産ルサフィールドハウス」という施設の中に、北方領土返還を求める署名ができるコーナーがあることを祖父が教えてくれました。

そこで早速「知床世界遺産ルサフィールドハウス」を訪れ、署名をしました。今の私には何の力もないけれど、「北方領土を返してほしい」というたくさんの方の思いが

集まれば、いつの日か元島民の人やその子孫が島に帰れる日が来るかもしれないと思いました。

今年で戦後七十一年がたち、北方領土が日本の領土であったことさえ知らない世代の人たちが増えつつあります。これはとても残念なことです。

「北方領土は、日本の領土だ。」

「早く返してほしい。」

「元島民の人達が自由に行き来できるようにしてほしい。」

これからもみんなで訴え続けることが、明るい未来を切り開くことにつながると思います。

いつか：私も北方領土から北海道を眺められる日が来ることを心から願っています。

入 選

北方領土問題について思うこと

射水市立小杉中学校 一年 神島小真知

「北方領土を返せ！」

そんな声が今でも上がっている。北方領土とは、国後

島、択捉島、歯舞群島、色丹島の四つの島々のことだ。元々は日本の土地だが、今はロシアに不法に占拠されている。この北方領土について思うことがいくつもある。

一つ目は、北方領土に住んでいた人たちのことだ。いきなり、

「ここは私たちの土地だ！」

なんて言われてもどうしようもないし、わけのわからない言葉で言われても困る。そんな中、殺される、もしくは逃げていった人の気持ちを皆さんは考えられるだろうか？ きつと、辛かったことだと思う。大好きだった自分たちの街をうばわれ、めちやくちやにされる。私だったら、どうすることも出来ないでいるだろう。

二つ目は、北方領土の引揚者についてだ。私の住んでいる富山県は、北方領土からの引揚者が北海道に次いで多い県だということ、中学校から配られたクリアファイルを読んで知った。富山県に引き揚げた方の九割以上がいる黒部市と入善町は県東部に位置する。一方、私の住んでいる射水市は県西部に位置する。少し遠いが同じ県民として、北方領土への意識も人一倍高くもっていると思う。だから、街頭署名活動などを見かけたら、積極的に参加したいと思う。

また、ちょうど今の時期、毎年八月には、「北方領土返還要求富山県大会」を行っていることを富山県のニュースで知った。興味を持ったので続けて見たり調べたりすると、去年は北方領土視察や「少年少女北海道派遣団」というのが行われていたそうだ。このようなことを行うのは大切なことだと思う。少しでも早く、少しでも日本側の主張を理解してもらうために、このような事業に国の問題として自分から、積極的に参加していきたいと思う。

三つ目は、今こうしている私たちに何が出来るのか、ということだ。中学生がロシア連邦に行って、プーチン大統領と話させてくれなんて、ほぼ不可能なことだ。それで、何が出来るのかを調べてみた。すると、元島民の方々が県内各地の学校などで島の暮らしや思い出を話す「出前講座」を行っておられることがわかった。学校で行われるのだから、休み時間または授業中ということになる。どうせ聞くのなら、集中して聞きたいと思う。

「北方領土を返せ！」

そんな声が早く無くなることを私は願っている。もしも、私が大人になるまでに返還されていなかったら、私たちの世代で返還してもらおう。何なら私が返還要求して返してもらおう。それくらいの手意気で、これからも日本国民と

して、富山県民として、射水市民として、一人の人として
過ごしていきたいと思う。

入 選

本当の平和と北方領土

射水市立小杉南中学校 一年 小林 空

私はよく、新聞やニュースで、北方領土の話聞きま
す。

日本の領土でありながら、日本人が自由に行き来でき
ず、ロシアに支配されている。もともとそこに住んでいた
日本人も、追い出されて、お墓参りにも許可が要る。

戦争が終わって七十一年が経ったのに、どうして本当の
平和はまだ叶っていないのでしょうか。どうして、帰りた
くても帰れない人がいるのでしょうか。

早く北方領土が返ってきてほしい、早くこの問題が解決
してほしい。日本の人々はそう思っています。

では、今、北方領土に住んでいる、ロシア国籍のあの人
たちはどうなるのでしょうか。

もしも、日本の要求通りに北方領土が返ってきたら、ロ
シアの人たちは追い出されてしまうのでしょうか。

そうだとしたら、それはすごくかわいそうなことです。
かつての日本人と同じ気持ちになると思います。

誰だって、ずっと自分の家で家族と楽しく幸せに暮らし
ていきたいと思ってるはずなのに、そうしようとかん
ばっているのに、なぜ、それが叶わないのか、私は不思議
でなりません。お互いに、相手の立場を考えて、相手に
なったつもりで、話し合いを進めるのが一番だと思います。
す。

北方領土は日本の国土の一部だけど、ロシアの人も、日
本の人も、仲良く楽しく暮らしている。日本の一番北の端
が、日本で一番美しい幸せなところになればいいと私は思
います。

日本とロシアとで話し合いが進まないのは、きっと、お
互いが意地を張って、自分たちの都合の良い方へ話を持っ
ていこうとしているからだと思います。損得を考えるか
ら、話し合いが進まないのです。

「和をもって貴しとなす」といいます。自分の望みも叶
え、相手の望みも叶え、それでいてお互い平等に。そんな
風に北方領土が変身して、日本に返ってきてくれること

が、私たちの目指すべき「北方領土返還」だと思います。

「自分には関係ない。そんなのどうでもいい。」と思っ
ている人たちも、一緒に考えてみてください。そうすること
で、より早く、北方領土が返ってくると思います。

みんな、どうすれば本当に平和になるだろう、自分に
できることはないか、と考えることで、北方領土問題以外
の問題も、きつとすぐに片づき、やっとな、本当に平和が
やってくるのです。

入 選

北方領土について

氷見市立十三中学校 三年 山崎 翔真

僕は、八月一日から四日までの間、北海道根室市での北
方領土青少年現地研修会に参加しました。この研修に参加
するまで、北方領土については深く考えたことはなく、自
分にはあまり関係のないものだと思っていました。

でも、実際に北海道へ行くことになり、調べてみると、
昔、北方領土には、富山から移住した人がたくさんいたこ

とを知って、とても驚きました。

だから、昔の人々の暮らしや、北方四島の歴史・文化を
学ぶために研修に参加しました。

まず、北方領土を題材とした映画「ジヨバンニの島」を
見ました。島の人々は、主に漁業で生計を立てて、木の家
に暮らしていたようです。戦争に負け、島にはたくさん
のソ連軍が攻め込んできました。島々はソ連に占領され、
人々は生活の自由を奪われました。成人男性は寒さに耐え
ながら、重い労働をさせられました。病気や、寒さによる
凍傷でたくさんの方が亡くなりました。生きのびた人も苦
しかったでしょう。

次に、日本とロシアの経緯を学びました。現在まで、日
本とロシアの間には、領土問題のことでたくさん条約が
結ばれています。実際、一九五一年には、サンフランシス
コ平和条約が結ばれ、四島は日本の領土として認められ
ています。

僕は、この四島は日本のものだという根拠を学ぶことが
できました。

ロシアは日本の敗戦後、四島に侵攻しました。ロシア
は、この四島を日本の領土だと認めているからこそ、攻め
てきたのだと思います。

北方領土付近は、海流の影響で世界でも有数の漁場となっています。ロシアはその資源を手に入れるために、今もこの四島を占領し続けています。

この研修会では、元島民の方の話を聞くことができました。当時の暮らしの様子やソ連が来た時の様子を、涙を流しながら話しておられました。それだけ自分の故郷への思い出があるのだと思います。

今では、戦後七十年以上の月日が流れていて、元島民の方で生きておられる方もほとんど減っています。だから、若い僕たちが、次の世代へとつなげていくべきだと思います。

少しでも早く島を取り戻すには、ロシアと平和条約を結ぶべきです。安倍首相にプーチンとの会談をがんばってもらわないといけません。僕たちも、現地を見て、学んで、感じたことを地元へ持ち帰って、家族・友達・先生に伝えたいです。

この研修会で学んできたことをしっかり活かして、これからの北方領土返還運動を呼びかけ、積極的に活動していきたいです。

